

1) 地震防災に関する地域（函館）シンポジウムの開催

平成9年11月25日（火）法華クラブ函館にて道南地域の方々120名の参加を得てシンポジウムを開催した。平成9、10年にかけて北海道内の地域活動としての第1弾である。

札幌からは、講演者を含めて25名、道南地域技術士協議会方11名の技術士を派遣した。

シンポジウムは、松井義孝幹事長の司会で始まり最初に“災害情報の共有化に向けて”のテーマで情報系部会委員の金田安弘技術士が講演し、特に阪神大震災や北海道南西沖地震等を事例として情報インフラの整備やインターネットの利用が効果的あることを提言している。

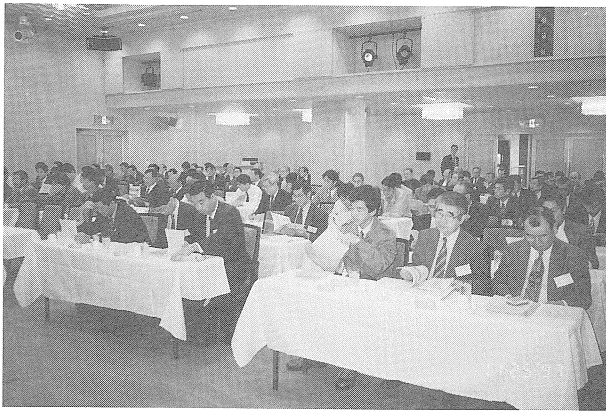
“地震による地盤災害の予防をめざして”のテーマで地盤系部会の二ツ川健二地盤系部会幹事は、地震災害に伴う要因対策として液状化予測図や、動的地

盤図の作成などにより函館地域を事例にあげ、さらに活断層とハザードマップの関係として提言している。

“災害に強い交通ネットワークへの提言”のテーマで交通系部会委員の藤井勝技術士は、道南地域と函館市との関係に重点を置き集落の人口密度と人流ネットワークや交通流と幹線道路との関係等を地震災害との関係として、特に函館市の幹線環状道路や港湾空港等とのネットワーク整備を具体的事例として提言している。

“積雪・寒冷地における安全・安心なまちづくり”のテーマで高橋徹男都市系部会長は、都市防災における市民への啓蒙活動（教育）や災害時におけるライフラインと生命維持システムの関係そして冬季の災害についてシステムの提言をしている。

“北海道における巨大地震と河川総合防災のあり方”のテーマで瀬川明久水工系部会長は、冬季にお



ける地震による河川、海岸災害に対するインフラ整備や、道南地域では先の南西沖地震を経験しておられるのでそれらの事例と今後の地震津波に対する提言を行っている。

これらの講演の後に2、3の討論を行いシンポジウムを閉じた。

2) 地震防災に関する地域（帯広）シンポジウムの開催

平成10年1月16日（金）帯広市防災キャンペーンの一貫として防災研究会が後援する。

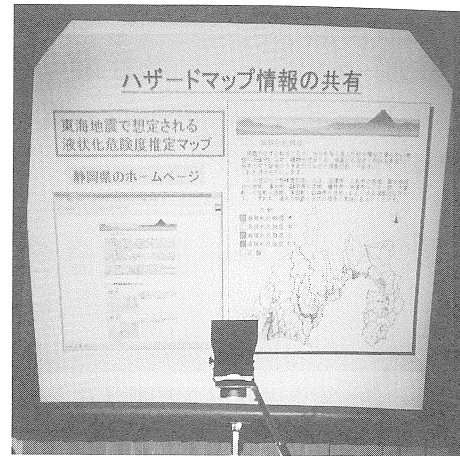
詳細については、本稿締め切りに間に合わないのので次号で報告するがここに、その概要のみを報告する。

日 程：平成10年1月16日（金）十勝プラザ
道東六市防災対策合同研修会／午前10時～12時
（道東六都市（帯広市、北見市、釧路市、網走市、紋別市、根室市）が抱える防災基本構想を各市の防災担当職員と当会からアドバイザーとして各分科会より出席し意見交換を行う。）

防災シンポジウム／午後1時～4時（350名参加予定）

（北大大学院岡田繁幸助教授の基調講演にあわせ、当研究会から高橋徹男技術士、北健治技術士、奈良義明技術士がパネルディスカッションに参加する。）

これらは、帯広地域の地元テレビ、OCTVにて放映予定。



3) 日本技術士会本部の災害対策調査委員会拡大会議に招聘され講演する。

平成9年11月18日 本部災害対策調査委員会拡大会議に招聘され松井義孝幹事長が「北海道支部防災研究会の活動の現状と今後の展開」のテーマで講演した。

本部としては、災害時に活動すべき組織運営等について「(仮称) 災害対策調査委員会」が調査検討する。それらの事業として、各部会、支部、プロジェクト等にアンケート調査をしたり、行政機関や学会、関係機関等に検討素案の基礎資料とすべく多くのヒヤリングを行っている。当日の委員会では、兵庫県や神戸市とのヒヤリング報告がなされていた。本部災害対策調査委員会が、私たちの防災研究会を知っていただいたことと、さらにこの度招聘下さったことに対し感謝申し上げます。そして、1日も早く委員会運営が軌道に乗りますことを本誌より御祈念申し上げます。

4) 幹事会報告

平成9年10月22日／午後2時より ㈱開発工営社会議室

- ：書籍の販売状況の報告
- ：地域（函館）シンポジウムの開催内容と講師の決定
- ：地域（帯広）シンポジウムとして帯広市防災キャンペーンの後援について

平成9年11月17日／午後3時より ㈱開発工営社

会議室

- ：地域（函館）シンポジウムの開催内容の確認
- ：地域（帯広）シンポジウムのテーマと派遣メンバーの選出について

平成9年12月9日／北海道大学工学部

- ：地域（帯広）シンポジウムの当研究会と派遣メンバーの役割とその内容

（文責：幹事長 松井義孝）